

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 シャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 6 年 1 月 26 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 15名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	8名	

※事業所記入

事業所番号	3873600450
事業所名	グループホームあまご
(ユニット名)	どじょっこ
記入者(管理者)	
氏名	藤澤 邦哉
自己評価作成日	令和 6 年 1 月 10 日

(別表第1の2)

<p>【事業所理念】</p> <p>1. 何事も決して急がず、利用者のペースに合わせて行動します</p> <p>2. 常時、会話に心掛け、利用者が安心して生活できる環境作りに努めます</p> <p>3. 地域のひととのふれあいを大切にします</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>四季折々の山間部の風景が堪能でき、雪景色が見られるなど自然環境に恵まれた場所に事業所は立地している。代表者を兼ねる管理者は、令和4年に代表を引き継ぎ、3名の役員と職員が一丸となり、利用者のペースに合わせた支援や会話を重視した支援に取り組んでいる。管理者は、現状の支援に留まることなく、日々考える介護支援を実践している。また、管理者家族は、事業所に隣接する場所に住んでおり、地域住民としても、積極的に地域との交流をしている。また、地域住民から野菜などの差し入れをもらうほか、家族から柿などの果物を提供してもらうこともあり、旬の野菜を取り入れたメニューに変更したり、干し柿や切り干し大根などの保存食を作ったりすることができている。さらに、事業所の業務改善として、管理者や副管理者を交えて、職員間で検討して導入した介護ソフトやSNSのLINEWORKSの情報ツールを活用して、タブレットでの記録のほか、職員間の情報共有が行いやすくなり、職員の負担軽減にも繋がっている。加えて、ホームページやYouTube、フェイスブックなどのSNSを活用し、利用者の様子や事業所の行事などの情報を積極的に発信している。</p>
--	---------------------------------	---

評価結果表

【実施状況の評価】

◎よくできている ○ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I. その人らしい暮らしを支える									
(1) ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	職員の思い込みにならないよう利用者様との会話や行動、態度を通して把握に努めている。	○	/	○	日々の生活支援の中で、職員は利用者から思いや意向などの聞き取りをしている。また、利用者の意思決定を促す声かけを行い、職員は利用者の思いを引き出せるように努めている。さらに、非言語のコミュニケーションを重視し、職員は利用者の表情をよく観察し、ちょっとした変化を見落とすことなく、思いをくみ取るようにしている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	身体や精神状態の確認をもとに、どのようにしたら気持ち良く暮らせるのだろうか検討、ケアの実施、改善を行っている。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	面会や電話、手紙などで家族様などとコンタクトしている。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	ヒントになるような発言や態度、行動を記録して共有している。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	決めたサービスが利用者様にとって良いのかどうかは実施してみないと分からない場合もあるのでその時は、柔軟に対応している。その時その時の思いの変化にも注意を払っている。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	事前調査や入所後の本人様や家族様との関わりで情報収集している。	/	/	○	センター方式の様式を活用した事業所独自の情報収集シートを作成している。入居前の事前調査で、管理者等は自宅や施設、病院を訪問し、情報収集シートを活用して、利用者や家族から聞き取りをしている。可能な限り、以前生活に関わっていた介護関係者や医療関係者から、情報収集をしている。中には、独居の利用者もあり、生活歴などの情報を聞くことができない場合に、入居後にも、表情や行動を観察したり、会話を聞いたりするなどの日々情報収集に努めている。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態(身体面・精神面)や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	定期的なアセスメントと日頃のケアの中で把握に努めている。	/	/	/	
		c	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握に努めている。(生活環境・職員のかかわり等)	○	24時間時系列での記録をとり把握している。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	担当者会議だけでなく、事象を常時、本人様視点で捉えチームとしてサービスを提供する習慣化を行っている。	/	/	○	管理者は、日々が情報収集であり、検討して終わることがないことを職員に伝え、日々の利用者の観察や情報収集を行い、考える介護支援を実践している。一人ひとりの利用者の状態は日々変化することもあり、日々の申し送りや会議を活用して、課題のほか、利用者自身が何を必要としているのかを検討している。
		b	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題の把握に努めている。	○	計画作成担当者、ホーム長、担当者、医療関係者を中心にチームとしての課題、目的共有、明確化を行っている。	/	/	/	
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	計画書第2表の作成は、まずは、本人様の思いや意向が記載されておりそれをもとに実施内容が作成されている。	/	/	/	
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	担当者が行う計画書への評価、担当者以外でもサービスについての意見、課題を取り込むようにしており、担当者会議での計画作成担当者やホーム長、担当者、医療関係者でそれぞれ意見を交換を行っている。家族様にも話し合った内容を伝えている。	○	/	○	定期的な評価のみに留まらず、日々の申し送りなどの中で、一人ひとりの支援のあり方を管理者や副管理者、利用者ごとの担当職員を中心に検討をしている。また、家族や医療関係者を交えて話し合い、出された意見を反映しながら、計画作成担当者を中心に介護計画を作成している。
		c	重度の利用者に対して、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	重度の線引きや定義をするのではなく今の状態をありのまま受け入れ状態の維持や改善についてチームで話し合い計画書に反映している。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	本人様の背景によってそれが可能である方には盛り込むようにしている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	介護計画書の一部を手元に置いて記録をしている。	/	/	/	○ 事業所には介護ソフトが導入され、職員は、介護計画の第2表を手元に置き、支援記録をタブレットで入力できるようになっている。介護計画をPDFに変換し、SNSのLINEWORKSの情報ツールを活用して、職員間で閲覧や情報共有が行いやすいようにしている。また、職員が希望する場合には、自宅でも情報ツールを活用して、支援経過などの記録を確認できるようになっている。さらに、利用者の発した言葉や日々の生活の様子が記録に残され、職員は記録を閲覧することで、日々のより良い支援に繋げている。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを個別具体的に記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	計画に番号を打ち、ケース記録を記入するときにその番号を記入している。記録者だけではなく端末にアクセスすれば全ての状況が確認できるようにしている。	/	/	/	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	定期的に行っている。	/	/	/	○ 介護計画の短期目標の期間に合わせて、3か月に1回見直しをしている。支援内容などの日々の支援での軽微な変更は随時実施するとともに、記録等を確認し、利用者の現状の確認が行われている。また、退院後や急激な身体状況の変化が見られた場合には、利用者や家族、医療関係者と相談して計画を見直し、管理者と副管理者を中心に、現状に即した計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	×	日々が現状確認であると思います。そのことから、迅速に対応の変化を現状に合わせるの当然でありわざわざ期間を設ける必要はないと考えます。	/	/	/	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	◎	明らかに介護計画書が機能しない場合は、緊急に会議を行い新たな計画書を速やかに作成している。	/	/	/	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	◎	開催している。	/	/	/	○ 定期的に会議を実施するほか、日々の申し送りをし、利用者の現状確認や課題などの話し合いをしている。また、職員が会議に参加しやすいように、ZOOMを活用して参加することもできるようになっている。また、緊急案件のある場合には、その日の勤務職員のほか、管理者や副管理者などの現場にいる職員で話し合い、迅速に対応している。さらに、会議で話し合われた内容は、情報ツールを活用して、職員に正確な内容が伝達できる仕組みづくりが行われ、確実な情報伝達に繋がっている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	◎	それぞれの職員が自分がケアを行ってどうであったかを情報を提供している。エビデンスに基づく意見交換を行っている。常にチャットが開いているので意見を述べる場はある。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫するとともに、参加できない職員にも内容を正確に共有している。	◎	なんでも全員で話すという考え方は間違いです。課題によってはケアの意思決定のスピードと質が大事であると考え全員で話すことと参加者を限定することの区別を行うとともに事前に意見を述べる場を提供している。ZOOMやラインワークスを使うことでいつでも議論ができる状態である。	/	/	/	
8	確実な申し送り、情報伝達		日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	◎	必要な情報は事業所に来なくてもラインワークスを使ってすべての職員に迅速に伝達できている。	○	/	◎ 日々申し送りを実施するとともに、SNSの情報ツールを活用して、職員間で必要で正確な内容の伝達を行いやすくなっている。	
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	◎	その日その日ではなくその時その時の意思決定(把握)を積み重ねていく努力をしている。	/	/	/	○ 管理者は、「利用者が何をしたいか、どういう思いなのか」を考えることを重視し、職員は「○ ○しませんか」などの声をかけ、利用者や自己決定ができる機会を設けるなどの支援をしている。また、職員は利用者の意向に沿った支援を心がけ、食事や消灯の時間を決めずに、一人ひとりの生活リズムやペースに合わせた支援が行われている。さらに、管理者は、「職員は、利用者の活き活きした言動や表情を引き出す声かけや雰囲気づくりが自然にできている」と感じている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくらせている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	◎	提案はするが決められるのは本人様自身であるという立場で日々関わっている。	/	/	/	
		c	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	利用者様一人一人がそれぞれ自尊心を大切にしながら暮らせるように職員はコミュニケーション技術の向上、ホームとして出来る事の開口を拡げるように努めている。	/	/	/	
		d	利用者の活き活きした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	◎	利用者様の視点に立った緩やかなルールの中で支援を行っている。ルールから外れたとしてもそれを受け入れられる寛容な雰囲気づくりを努めている。	/	/	/	
		e	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	喜び楽しみだけでなく色々な感情表出が引き出せるようにコミュニケーション技術(傾聴・共感・リアクション等)向上に努めている。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。(人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮、目立たずさりげない言葉かけや対応等)	◎	それについての意識の浸透と向上のために、会議を行い自己点検やお互いに言葉遣いの事について意見言い合える職場作りを努めている。場合によっては他者様たちの前で大きな声で声をかけないといけない場面もあるが、会議で自己点検実施したりや嫌な思いをさせない声の掛け方や介助の工夫についての検討会や許容範囲の線引きを行っている。	/	◎	○	○ 職員は勉強会や話し合いで、人権や尊厳、プライバシーなどを理解し、利用者の意見や意向を尊重した支援が行われている。スピーチロックにならないことを重視し、時間をかけて、継続的に勉強会を実施し、職員の理解促進に努めている。また、気になる言動などの課題解決に向けた進捗状況を、管理者は確認をしている。さらに、職員は居室を利用者のプライバシーのある空間と認識し、居室への入室の際に、ノックや声かけをしてから入室するとともに、退室時にも利用者にも声をかけることができている。不在時にも、事前に利用者にも声をかけて、了承を得た上で、職員は入室することができている。
		b	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	一つ一つ声をかけ同意を得ながら排泄介助を行ったり排便の確認などはさりげなく声をかけ行っている。個浴による入浴介助を実施している。	/	/	/	
		c	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	利用者の状態に関係なくノックまたは、声をかけて入室している。また、居室に居ない場合にあっても本人様の同意を得て入室をさせてもらっている。	/	/	/	
		d	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	職員は守秘義務の誓約書に署名しており遵守している。また、職員同士でやりとりするプライバシーに関わる内容は本人様や他者に聞こえないよう配慮を行っている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	互いを尊重し合うことで、お互いに感謝の言葉が出る関係づくり、また、意思決定や同意を大切にすることでお互いの立場が対等であることを伝えている。	/	/	/	管理者は、「トラブルは起こるもの、起こってから分かることと利用者から教えてもらい、先入観で利用者を見ることはしない」との考えで、利用者同士が共存していくため、どうすれば良いか考えていくことを、職員に伝えている。職員は、利用者の性格や相性などを把握している。また、利用者同士が下膳を手伝ったり、励ましの声かけをしたりするなど、支え合いや助け合いをする場面も見られる。さらに、職員等は、利用者に役割を担ってもらった場合には、感謝の言葉を伝えている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	理解しているが、協調性や全体性を重視しすぎるのは、個別の暮らしの充実とは相反するので折り合いが難しい。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)	○	利用者様の個性や他者様との相性などを把握できている。また、コミュニケーションや身体精神状況が異なることを踏まえ無理のない緩やかな共存関係の構築が出来ている。あくまでも個々への尊重であり個々の権利優先であるからして誰かを世話役的に考える事は非常に危険な考え方だと思いついようなことは実施していません。	/	/	○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	◎	予測に基づき未然に防げることは防ぐ。トラブル時は、職員が載くのではなく、必ず当事者様の話しをまず聞きその思いや相手に伝えたい気持ちに共感を行っている。	/	/	/	
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	事前聞き取りである程度把握できている。	/	/	/	
		b	知人や友人等が気軽に訪れたり、本人が知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていったりなど、これまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	案外それが本人の意思決定であったとしても良い時と悪い時があり、積極的に外出してその場所を訪れたり、知人や友人との関係を維持するような支援はしていない。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者(および意思表示が困難な場合はご家族)の希望に沿って、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	職員の都合という文言の定義が分からないが、すべての支援は合理的配慮をもとに行っている。寝たきりの方を除いてすべての利用者様の施設周りの散歩支援を行っている。その方の希望に合わせて歩く距離や歩く場所を選んでいる。	○	◎	◎	日常的に、事業所周辺の散歩をしている。また、散歩などの外出をする際に、職員は利用者の意見や希望を確認している。さらに、行事計画係が外出計画を立て、定期的に、初詣やコスモス畑、フラワーパークなどにドライブをして出かけることができています。
		b	家族、地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	現在の状況では行っていない。そもそもそのような地域資源がない。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	理解の幅はあるが、あらゆる因子を検討し環境を整え引き起こさないよう取り組んでいる。	/	/	/	利用者自身に、できることやできそうなことは自分でしてもらい、職員は見守りや待つ支援に努めている。また、自立支援が利用者の苦にならないように見極めをしながら、職員は、利用者から出された「歩きたい、家に帰りたい」などの希望や要望に応じて、歩行器を使用して歩行訓練をするなど、希望や意向を尊重した支援に取り組んでいる。さらに、職員は、利用者の生活リズムやペースに合わせた支援が行われている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	運動や遊び、身の回りの事などその方に合った取り組みを通じて予防を行っている。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	個々の状態を見極め、押しつけや過介護にならないよう取り組んでいる。何よりも高齢になって自立して生きることが苦しみにならないよう十分に配慮して支援を行っている。	◎	/	○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	利用者様個々のそう云った情報は把握した上で、今、どのようなことで楽しい気持ちになれるのか、嬉しい気持ちになれるのかを検討している。	/	/	/	切り干し大根や干し柿づくりなど、職員は声をかけ、意思や意向を尊重しながら、利用者から「やってみようか」という声がかかるような役割や出番を担ってもらえるよう支援している。また、声かけや役割を担ってもらおうことが、過度な無理強いや苦痛とならないように、職員は注意を払うようにしている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごすように、日常的に、ホームの内外で一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	全ての方が役割や出番があるわけではなく、またそれを欲しているわけではないということも踏まえて、何が出来るからという判断ではなく自らしたいという自己判断を尊重しながらホーム内外での楽しみごとや役割の支援を行っている。	◎	◎	◎	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つと捉え、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	全ての方の把握はしていない。				訪問調査日には、利用者自身が好みの服を選び、作業衣や半纏などを着ている姿を見ることができた。また、服などの整容の乱れが見られた場合には、職員が利用者へ声をかけ、さりげなくフォローをしている。さらに、重度の利用者にも整髪や身だしなみに気を配るとともに、リビングに出る際に、利用者の状況を考えて、上着を羽織るなどの工夫した支援も行われている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	○	把握できている方に関しては支援できている。また、家族様を選んで持ってきていただいた服や持ち物を使用できるよう支援している。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員が一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	判断力の度合いに応じて、一緒に選んでいる。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせたその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	◎	ダンスの中の入替えを季節毎に行い、季節に合った服装が出来る支援を行っている。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にできなくなり、口周りや髪等が汚れている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	あからさまなことをせずに清潔感を保った身だしなみが出来る支援を行っている。	◎	◎	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	◎	希望がある場合は送迎や支払いなどの支援を行っている。ホーム内での理容においても相談しながら行っている。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	◎	気持ち良さや楽しさ、清潔感を見ながら支援を行っている。訪問美容師に依頼して定期的に整髪している。			○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	生きる上での楽しみであり、心身の健康を保つために必要であると理解している。				管理者が、利用者の好みのメニューや意見を聞いて献立を作成し、利用者へ調理の下ごしらえや台拭き、食器拭きなどを利用者へ手伝ってもらいながら、職員が調理をしている。主に管理者が食材の買い出しに出かけるほか、地域の精肉店や鮮魚店から、食材の配達をしても多く、旬の野菜を使用したメニューに変更することもある。家族から、夏にスイカのほか、秋に栗や柿の差し入れをもらうこともあり、利用者と一緒に干し柿づくりなども行われている。食器類は、利用者の状況に合わせて、使いやすい物を使用している。食事の際には、職員は見守りや食事介助を行い、利用者とは別々の時間帯に食事を摂るようになっている。リビングを見渡せる場所にキッチンがあり、利用者は調理の様子を眺めながら、音や匂いを感じることができる。さらに、利用者の摂食状況に応じて、管理者や副管理者、訪問看護師、主治医を交えて相談を行い、食の形態などに対応するとともに、味付けなどを職員間で話し合いこともある。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	台拭きや下膳は一緒にやっている。下準備や後片付けは本人様の意向に従って実施している。今は、その活動を望む利用者様は少ない。個々の主張に配慮しつつも主張しない方も配慮している。また、地理的要因もありその日暮らしのような献立は難しい。			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	丁寧にお願ひしたり、感謝の意を伝えてはいる。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	把握はしている。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって音なつかしいもの等を取り入れている。	○	畑で採れた野菜や近所の農家の方に頂いた野菜をふんだんに使ったり、芋ご飯やだんご汁、季節の山菜など昔食べていたであろう食事を取り入れている。			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼、嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしい盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	誤嚥性肺炎の可能性と相談しながらの食事形態を検討している。見かけだけでなく、基本のhot is hot, cold is cold を実践している。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	それぞれ模様や材質など違ったものを使用している。			○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	◎	要介助者の介助をしつつも周りに配慮しながら声かけを行っている。			○	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	働きかけの声かけや、何が出来るのだろうかと一緒に考えたり、一緒に食前体操を行い食事の時間が近づいていることを意識して頂く配慮を行っている。また、オープンキッチンなので匂いは直ぐにリビングに漏れると思います。	○		○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	病状や体型などに配慮しながら水分や食事の摂取量を調整している。				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	好きな飲み物にしたり、時間をずらして食べたいものを待ったり、一度に飲むのが負担な場合は、回数を増やしたりしている。飲んだり食べたりすることが本人様の精神的負担にならないよう配慮した支援を行っている。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	献立作りは、管理者が行い出来た献立に関して各職員からのコメントを受け修正するようにしている。栄養士のアドバイスは受けていないが、炭水化物ばかりにならないよう配慮している。			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	毎日、まな板や布巾などの消毒を行っている。冷蔵庫の掃除や納品時に在庫食品の確認を行い清潔や鮮度を管理している。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	勉強会で学び必要性や重要性について理解できている。	/	/	/	毎食後に、職員は声をかけ、利用者は口腔ケアを実施している。また、職員は見守りのほか、利用者自身が歯磨きなどをすることが難しい場合に、サポートをしている。さらに、口腔ケア時に、職員は一人ひとりの利用者の口腔内を観察し、状況を把握して、記録に残している。必要に応じて、早期の訪問歯科診療や歯科医の受診に繋げている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	◎	付き添い、必要な介助を行い把握している。	/	/	◎	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	トラブル時は、外来または訪問歯科受診を受け指導して頂いている。	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	義歯を使用している利用者様に対しては毎日磨けているかどうか確認している。	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック、歯科医の受診等)	○	トラブルが起きやすい方に対しては特に行っている。	/	/	○	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	理解している。	/	/	/	事業所では、基本的に利用者がトイレで排泄できるように努め、職員は声かけやトイレ誘導などの支援をしている。利用者の状況に応じて、布パンツや紙パンツ、パッドの種類をその都度職員間で話し合い、利用者や家族に確認の上で使用している。また、意向に沿って、夜間のみポータルトイレを使用する利用者もいるなど、一人ひとりに応じた適切な支援に努めている。さらに、排便の状況は、事業所独自のスケールを作成し、職員が把握することができる仕組みづくりをしている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	理解している。	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	概ね把握している。記録を行い共有している。	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々々の状態にあった支援を行っている。	○	その時の状態を把握してトイレでの排泄支援に取り組んでいる。最近では、入所時から紙パンツを履いている方が多い。	◎	/	○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	排泄そのものや排泄に至る行為、食事や水分などに注目して改善の取り組みを行っている。	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	記録をもとに把握に努め誘導を行っている。	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	自立されている方は自分で選んで選んで載っているがそうでない場合は職員が十分吟味して選んでいる。適切かどうかの確認は頻繁に行っている。気になる家族様に対しては報告するようにしている。	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	個々の状態に応じて使うものを検討し導入している。	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	運動を取り入れたり、食物繊維の摂取、夏場の水分摂取量を増やすよう試みたりする程度である。	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	○	合理的な判断配慮に基づき入浴日や時間を指定して入浴支援を行っている。一人一人の好みを把握して入浴支援を行っている。	◎	/	○	週2〜3回、午後の時間帯に利用者が入浴できるよう支援している。職員の勤務状況もあり、入浴できる日や時間帯を決めているものの、利用者から夕方の時間帯等の入浴希望が出された場合には、対応することも可能となっているが、現在、希望は出されていない状況となっている。また、利用者の重度化に伴い、浴槽に浸かることが難しくなった利用者には、シャワーキャリーやストレッチャーを活用して、シャワー浴をしてもらうなどの工夫を行い、清潔保持にも努めている。中には、入浴を拒む利用者もあり、意向を確認するとともに、時間帯や職員を変更して声かけをするなどの対応をすることもある。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	○	最大限の配慮を行っている。	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	勿論そうではあるが、浴室は、事故や健康状態急変の確率が高い場所であることを考慮しながら一人一人に支援を行っている。	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせずに気持ち良く入浴できるよう工夫している。	◎	原因や理由が毎回同じとは限らないので都度本人様の気持ちや意向を伺い清潔維持との天秤をかけながらどうしてもという時は粘り強く対応している。	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	入浴前にバイタル測定を必ず行っている。浴後の経過の見守り、水分補給を勧めている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	◎	把握できている。	/	/	/	管理者は、「夜眠ることが何より大切である」と考え、眠れないことのデメリットや影響のほか、検討などの過程を踏み、医師に相談の上で、睡眠導入剤などの服薬に繋がることもある。また、服薬が開始された場合には、利用者の状態などの経過を主治医に報告し、相談しながら薬の量などを調整している。また、利用者の生活リズムに合わせた睡眠支援が行われている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	食生活や排泄、日中の活動量など把握を行い原因を探っている。その都度、生活リズムを整える試みを行っている。	/	/	/	
		c	利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	◎	そこに至るまでのプロセスを守った上で、つまり原因や状態、健康状態の悪化リスク等を把握して改善の取り組みを行った上で効果の無い場合は医師と相談して眠前薬や安定剤の処方を受けている。	/	/	◎	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	個々の状態に応じて休息を支援している。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	◎	贈り物が届いたり、家族の安否を機にされるときは電話やアプリを使ってのオンライン面会の支援をしている。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	◎	今は電話ができなくても手紙が書けなくても自らの思いや様子を伝えられる手段を使い支援を行っている。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	◎	電話や端末をすぐに利用できる状態にある。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	◎	手紙が届くことはない	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力してもらおうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	◎	オンライン面会を勧めている。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	理解できている。	/	/	/	
		b	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	○	各利用者様によってお金に対する価値観の違いを把握して使う場面への支援を行っている。	/	/	/	
		c	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	近くに店が無いので定期的に巡回する移動販売を利用して頂いている。	/	/	/	
		d	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	×	決めつける以前の話として、お金の怖さを理解している施設の対応としては、入所時にトラブルの事例を伝えて個人でのお金の所持はお断りしている。	/	/	/	
		e	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	所持については認めていないので相談していないが、どうしても所持したい場合は施設側が責任は負わないとお伝えしている。使い方に関しては頻りに相談している。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	他科外来の付き添いや急な受診時の付き添い、入退院、入院中における支援、療養マッサージの受け入れなど本人様の諸事情に合わせて出来るだけ対応している。	◎	/	◎	利用者や家族の要望に応じて、家族との面会のほか、外出支援を自由に行なえるようにしている。また、利用者から訪問マッサージの希望が出された場合には、外部サービスの手配をしたり、医療機関の同行支援に対応をしたりするなど、柔軟な支援やサービスの多機能化にも取り組んでいる。
(3) 生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	◎	玄関先には花壇や座る所を設けている。気候の良い時は基本的に玄関の扉を開けて中での歌声や話し声が聞こえるようにしている。	◎	◎	◎	玄関や事業所周辺には、季節の花のほか、南天やレモンの果実が収穫できる木が植えられている。訪問調査日に積雪が残り、雪かき用のスコップなどが置かれ、家庭的な雰囲気を感じられた。また、玄関先に、野菜などの差し入れを置いてくれるなど、地域住民も気兼ねなく、事業所に来訪できるようになっている。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を感じており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない寂風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていない等。)	○	バランスをとりながら家庭的な雰囲気を無くさないように十分に配慮することに努めている。掲示義務の書類掲示や必要に応じて使う車イス配置、必要性からトイレ内に排泄用品や大きなゴミ箱など置いている為に独特に雑多(混ざった)な感じがあると思います。	○	○	○	玄関に入ると、事業所内で飼育されているウサギが迎えに来てくれている。リビングにオープンキッチンが設置され、利用者や職員と一緒に、調理やおやつを作ることができる空間が設けられている。食卓テーブルが置かれている場所に、床暖房の設備もあり暖かく、廊下の天井から吊るされた手作りの物干しに、洗濯物が干され、家庭的で居心地の良い空間となっている。また、共用スペースの掃除が行き届き、整理整頓が行われ、利用者の動線の確保にも繋がっている。さらに、庭にテラスや畑があり、からしを干した網がかけられていた。加えて、畑に植えられた収穫前のダイコンやネギの成長を見ながら四季を感じるなど、利用者の五感を刺激できるような工夫が行われている。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	カーテンの開閉で光の調整やびっくりするような音を出さないよう配慮している。トイレや床、廊下の掃除は毎日行っている。			○	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	季節の花を活けたり、窓を大きくとり外がすぐに見える様にしたり、エアコンの調節をこまめに行い、視覚、聴覚、嗅覚、触覚で季節や時刻を感じるようにしている。			○	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	◎	玄関先にベンチを起きたり、リビングにソファを設置している。				
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	入所前には本人様や家族様へ馴染みの物好きの物の持ち込みを呼びかけている。だいたいの方が何かしらの物を持ち込まれている。	◎		◎	利用者は、馴染みの物や使い慣れた物を居室に持ち込むことができ、仏壇や洋服かけ、櫛や鏡が置かれるなど、職員が利用者と一緒に考えて配置するなど、居心地の良い空間づくりをしている。中には、家族が利用者のために加湿器などを持ち込んでいます。また、出入り口に近いたンスの上に、何種類もの帽子を置き、散歩時などの外出時を選びやすいようにしている利用者もいる。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、混乱や失敗を防ぎ、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	まず、お一人お一人の事を把握して、それぞれの方に対応していく方針である。手すりの設置、床面バリアフリーで移動しやすいように配慮している。			○	リビングにソファが置かれ、利用者の立ち上がりには留意して、高さを調節している。また、居室の入り口に名札を設置し、利用者が居室を迷わずに認識しやすいように、一言ずつ文字を表示するなどの工夫をしている。さらに、利用者の状態に応じて、歩行器や車いすの利用者などの適切な選定をしている。
		b	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	新聞や湯飲みは手じかに置いている。家庭において、いつでも手にとれる距離に、ほうきや掃除機、裁縫道具や大工道具や園芸用品が置いてある方が不自然だと思いませんか。				
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていること、異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)を理解し、日中は玄関に鍵をかけなくても済むように工夫している。(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)	◎	夜間以外は、玄関の施錠はしていない。	◎	◎	◎	管理者や職員は、鍵をかけることの弊害を十分に理解をしている。職員は、「利用者の自由を制限しないことが仕事である」と考え、日中に玄関やユニットの出入り口などは施錠されておらず、夜間のみ、19時から7時まで、防犯のために玄関の施錠をしている。また、玄関にはセンサーチャイムが設置され、職員は利用者や来訪者の出入りが分かりやすくなっている。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	◎	施錠を望まれる時には、家族様には、心身の状態やホームでの対応について報告している。そして最大限の安全配慮を行っていることとそれでも起こりうるリスクについて話をしている。				
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	事前情報や定期検査の報告などで概ね把握している。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	注意しており、記録を行っている。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	ちょっとした皮膚のトラブルや血圧などの異常値の場合は主治医や訪問看護師に報告して指示を仰いでいる。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	把握して希望に沿って受診支援を行っている。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	よく話し合い、希望に応じてかかりつけ医を決めて適切な医療が受けられるようにしている。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	通院前や通院後の報告、今後の支援に付いての話し合いを行っている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	暮らしの近況や認知症の症状など詳しく情報提供を行っている。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、日頃から病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	病院の相談員などと連絡を取り合い早期隊員が出来るように努めている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	皮膚の異常や嘔吐、便のつまり具合、微熱や咳き込みなどなど、ちょっとしたことでも訪問看護師やかかりつけ医へ相談している。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	訪問看護ステーションとの24時間対応の契約となっている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできる体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	日常的にバイタル測定を行いサインを見逃さないように取り組んでいる。誤嚥が疑われる場合は頻度を上げて測定し早期発見に努めている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解し、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	目的はある程度理解していると思うが副作用や用量がどうであるかについては分からない。注意が必要な時には都度に医師から指示を得ている。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	3度の確認を行っている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	内服後の経過観察を行っている。				
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	現段階での意向を確認しながら暮らしの支援を行っている。				事業所として、「看取りについての対応指針」等を整備し、入居時に家族等に説明をしている。重度化や終末期の状況に伴い、利用者や家族、管理者、副管理者、医師、医療関係者等を交えて話し合い、その都度支援の方向性を確認している。日常的に、事業所として医療関係者との連携が密に図られ、主治医等から、段階的に利用者の状況変化の報告があり、情報ツールを活用して、職員間で情報を共有している。また、管理者は看取りに至る経緯が重要と考え、利用者や家族等の意向に沿った支援に努めている。職員の聞き取りから、「不安な時に管理者に連絡することができ、すぐに対応してもらえることもあり、安心して夜間の支援ができる」との意見を聞くことができた。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけではなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	◎	随時、本人様、家族様とかかりつけ医や職員との話し合いの機会を作っている。	○		◎	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	◎	職員のストレスにならないような終末期の支援の検討がなされている。				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	◎	本人様、家族様には都度出来る事や選択肢の提供を行って同意や方針の共有を得ている。				
		e	重度や終末期の利用者が日々より良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	◎	状態に応じて都度に検討を行っている。栄養補助飲料やエアマット、ギャッジベッドの使用、吸引機の準備もしている。				
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	◎	家族様の心情を理解しながら、気持ち良く本人様と過ごして頂くために配慮を行っている。				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	◎	年に2回研修を行い学んでいる。				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	◎	訓練は行っていないが、取り決めに基づき予防や発症後の対応は行われている。				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れ、随時対応している。	◎	取り入れ周知されている。				
		d	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	取り決めに基づき支援を行っている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人をともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	入所時には、ホームの方針として共に支える事をお伝えしている。支援方法に関しての相談や情報交換を行っている。	/	/	/	感染対策が緩和され、家族との面会のほか、希望に応じて、外出や外泊が可能となり、利用者や家族に喜ばれている。令和5年の夏に、家族や地域住民が参加した夕涼み会を開催し、カレーライスを食べたり、花火を楽しんだりすることができた。また、担当職員が毎月利用者の様子を手書きしたお便りを家族に送付している。また、SNSを活用して、事業所の運営上の出来事や役職就任の挨拶などを配信している。さらに、職員は家族との信頼関係を築き、面会時や電話連絡等を活用して、気軽に意見や要望を伝えてもらえるようにしている。
		b	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等、家族同士の交流)	◎	全てではないが、差し入れのおやつと一緒に食したり散歩に出たりする機会を作っている。	○	/	◎	
		c	家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録音、写真の送付等)	◎	面会や電話時の会話で現況や課題についての情報を共有してどのように支援するか一緒に考えたり支援方法を伝えたりしている。暮らしの様子などについてはホームページやSNSを通じて知って頂いている。	◎	/	◎	
		d	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	◎	本人様と家族様との関係は様々で、まずはそれを理解してどのような関係性が適切なのか考えそれぞれの家族様に対応をしている。	/	/	/	
		e	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	◎	ホームページやSNSで頻繁に報告している。	x	/	○	
		f	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	入所時や事あるごとに現在のリスクに関してや話し合われた内容について報告している。	/	/	/	
		g	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行うことで、居心地よく安心して過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	◎	礼儀ある応接、またフレンドリーな対応で家族様に対して安心して気軽に話してもらえる環境を作っているので家族様からの意見や問い合わせは多い。	/	/	○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。(食費、光熱水費、その他の自己負担額、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	時間を十分にとり、具体的な例を挙げながら契約内容の説明を行っている。	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	退去事由については契約書に記載されている。	/	/	/	
III. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	◎	開設時に地域訪問を行っている。運営推進委員は、地域(自治区)の代表者様に代々努めて頂いている。	/	◎	/	事業所は自治会に加入し、管理者は自治会の役員を務めている。地域の高齢化や人口減少が進んでいるが、地域住民から畑で収穫した野菜の差し入れをもらうなど、助け合う関係性が構築されている。また、散歩時に、近隣住民と利用者が挨拶や会話を交わしている。さらに、管理者は、事業所に隣接した家屋に居住するほか、地元に住んでいる職員がいるなど、事業所は地域に慣れ親しみ、地域住民から認識されている。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	◎	利用者様、職員は屋外で地域の人に出会った時は挨拶が出来ていてフレンドリーである。役員、管理者は地域の自治会の役員や班長を務めている。施設長はじめ事業所役員や職員がその地域に住んでいる。	/	○	◎	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	x	過疎地なので減ることはあっても増えることはないと思います。	/	/	/	
		d	地域の人々が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	△	用があれば立ち寄って頂いていますが何もなければ立ち寄り遊びに来ることはないでしょう。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	◎	出来ている。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	x	行っていない。	/	/	/	
		g	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得て、安全で豊かな暮らしができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	△	理解を広げるとは何の理解でしょうか。何か理解を得ないとここに住むことができないのでしょうか。豊かとは何を指して豊かなのわかりかねます。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人の参加がある。	○	利用者様以外の参加は出来ている。流行病前は一緒にレクリエーションや散歩を行なったりしていた。	○	/	○	感染対策が緩和され、旧小学校の跡地の「みそぎの里」を活用して、集合形式の運営推進会議が開催できるようになっている。会議には、家族や地域住民、警察官、町担当者などが参加して開催をしている。会議では、事業所の現況報告や各種委員会の報告、職員の昇進等を報告、外部評価のアンケート依頼などを行い、参加メンバーと意見交換をすることができている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告するとともに、会議で出された意見や提案を活かした結果等も報告し、議事録を公表している。	○	報告はしているが、そもそもこの評価事業自体に意義があるので大きく取り扱うことはない。	/	◎	○	
		c	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	◎	自治会の活動と被らないように毎回連絡を取り合って日程調整している。	/	/	○	
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	◎	共通の認識をもち理念を理解し、同じ方向を向いている。	/	/	/	/
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	◎	家族様には入所に伝えている。それよりもその理念の体現によって伝わっていると思う。	△	◎	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	認知症介護実践者研修には積極的に取り組んでいる。毎年研修計画を作成して法人内研修を行い質の向上に努めている。	/	/	/	利用者の病院受診の同行支援や買い物など、職員の負担になることは管理者や副管理者が対応し、職員に、利用者の日常生活支援に専念できる環境を作っている。また、管理者と副管理者のいずれかが、必ず勤務する日勤のシフトにしている。職員の聞き取りから、「積雪の際に、送迎をしてもらったり、オンラインでの会議に参加したりするなど、安心して業務につける」などの話を聞くことができた。さらに、希望休や有給休暇の取得を促すとともに、急な勤務の変更にも対応してくれるなど、働きやすい職場環境づくりが行われている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	知識、技術、考え方や態度を基本的に日々の実務の中での教育や訓練にあたっている。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	キャリアパスを用いて給与水準を明確にしている。また、時間外労働にならないよう常々環境や業務内容の点検を行っている。労働に対する動機は各々違うので個別に配慮を行っている。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	町の中での任意団体に所属して情報交換などを行っている。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	日勤帯の3人+α体制を維持することに努めている。	○	○	◎	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解したうえで、これらが見逃ごされることがないように注意を払い、発見した場合の対応方法や手順についても理解している。	◎	委員会を設置していてその中で法律を学んだり事例検討をしたりしている。	/	/	◎	事業所として、虐待身体拘束委員会を立ち上げ、各ユニットで課題を挙げるとともに、職員間で話し合い、課題解決に向けて取り組んでいる。管理者と職員は、虐待や不適切なケアに該当する具体的な行為を把握するとともに、気になる言動のある場合には、常に職員間で検討をしている。また、不適切なケアなどを実際に確認した場合には、管理者や副管理者に報告して相談するとともに、職員同士で「もう少し優しく対応してほしい」などの注意をし合うこともある。管理者は、「不適切なケアになる前に何か隠れていないか」と考え、職員間で事例を検討するなど、事前に対策を行うようにしている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	◎	朝と夕申し送りを一緒に聴いて状況に基づく助言や職員のとった判断について話し合ったりしている。	/	/	/	
		c	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	◎	合理的判断に基づく無理のないケアを行うよう指示をしている。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	◎	全体で学ぶ機会を持っている。やむを得ない場面自体が起きない取り組みを行なっている。	/	/	/	/
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	◎	全体で事例検討会を行なっている。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	◎	ある場合は説明している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解し、利用者が家族の現状を踏まえ、パンフレット等の情報提供や相談に乗る等の支援を行っている。	△	管理者としては制度など理解しているが、それを支援するのは職務外であるとして積極的に支援はしていない。	/	/	/	
		b	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	△	この支援に関しては連携体制を築いていない。	/	/	/	
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	マニュアルは掲示している。毎年勉強会を行なっている。	/	/	/	
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	訓練を行い実践に当たっている。実践経験を積むことで実践力の向上を図っている。	/	/	/	
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	事故報告書、ヒヤリハットを作成している。それをもとに全体で検討会を行なっている。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	検討会の中で把握し防止につなげている。	/	/	/	
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	殆どの職員は理解している。	/	/	/	
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	そのような事案が出来ないよう取り組んでいる。	/	/	/	
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	もしも事案が発生したら手続きにのっとり、透明性を持った事実確認を行い今後の対策、改善を行いたいと思います。	/	/	/	
48	運営に関する意見の反映	a	利用者や家族が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	運営推進会議や家族様と話す機会を多く持つ。	◎	/	◎	日々の生活支援の中で、職員は利用者から意見や要望を聞き、柔軟に対応をしている。家族からは、面会時や電話連絡時、運営推進会議を活用して、意見や要望を聞くようにしている。日頃の家族との交流で、信頼関係が構築され、いつでも意見を伝えてもらうことができている。また、職員も管理者や副管理者に意見や要望を伝えやすい環境が整備され、意見や提案を伝えやすく、出された意見や提案を話し合い、より良い支援に繋げている。
		b	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	契約時に重要事項説明書の読み上げを行なっていて、その中で情報提供を行なっている。	/	/	/	
		c	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	◎	代表者は現場に居ます。	/	/	/	
		d	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	◎	業務全般、ケア全般、設備投資など幅広い場面で意見を求める機会を持ち、サービスに対する満足度の向上につなげる取り組みをしている。	/	/	◎	
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	◎	自己評価を年に1回行っている。	/	/	/	外部評価の自己評価は、職員と一緒に取り組み、管理者が意見を取りまとめて作成をしている。また、利用者や家族、会議の参加メンバーに、外部評価を受審することを事前に伝えるとともに、アンケートの協力依頼を行っている。事業所の考えで、サービスの評価結果の報告や目標達成の取り組み状況などのモニターの呼びかけなどの予定はしていない。
		b	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて、事業所の現状や課題を明らかにするとともに、実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	×	十何年も内容が変わらない、このサービス評価自体の存在が単なる利権の一部であるという認識、評価事業の効果に疑義がある立場をとっています。よって自事業所の目標や課題は自事業所のやり方で達成、解決するという姿勢です。	/	/	/	
		c	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	×	生産性のない茶番である評価や目標達成計画のモニタリングに多くの方の手を煩わせるのは申し訳ないのではありません。	△	△	△	
		d	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	×	大きく取り扱うことはないが運営推進会議の中でこのようなことがあって現在こうしていますと簡単に確認をしていただいています。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	県のガイドラインに従ったマニュアルを作成周知している。				防災士の資格を持つ管理者は、地元の消防団に所属し、日頃から地域の防災活動に協力している。事業所として、火災や風水害、昼夜等を想定した避難訓練を実施している。地域の高齢化や人口減少が進み、地域住民に協力を得ることは難しい状態になってきているが、消防署や消防団と連携を図り、協力支援体制を確保している。また、町行政と一緒に、地域の合同の防災訓練に協力している。利用者家族等アンケート結果から、災害の備えに対して、十分な理解が得られていないことが窺えるため、家族に安心安全な災害支援の取り組みを伝えていくことも期待される。管理者は、「情報を自分で取りに行くことも大切で、受け身ではなく、分からないことがあれば、家族から聞いて欲しい」と考えている。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるように、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	主に夜間帯の避難訓練を行なっている。				
		c	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	行なっている。				
		d	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	消防署の支援をもとに訓練を実施している。	×	○	○	
		e	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	○	大規模災害時の訓練を内子町と実施した。町や地域には緊急時に協力出来ることは伝えている。				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	◎	一部はできている。ただ、今の時代は、情報は様々大量に発信されています。問題はそれを掘みに行くかどうかということだと思います。よって事業所としては発信は続けますがあとは受けて次第だという認識です。				以前は、事業所として、地域の「いきいきサロン」を開催し、地域の高齢者等の相談支援をすることができていたが、コロナ禍や感染対策が続き、現在は中止をしている。以前に参加していたサロンのメンバーの来訪があり、相談に応じたり、交流したりすることの継続をしている。また、地域の高齢化や人口減少に伴い、地域住民が集まる機会が少なくなっている。旧小学校跡地で、月2回「みそぎの里カフェ」が開催され、有料で食事が提供されるなど、運営推進会議の場所としても活用している。管理者は、「相談が寄せられた場合や地域の行事等には協力をしていきたい」と考え、今後は地域の活動拠点として、協力していくことも期待される。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	△	公式な相談支援ではないが地域の高齢者と関わる時には相談や困りごとがないかと注意を払っている。		×	○	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	事業所ではあるが、そこに住んでいる人が居て、その人たちがそれを必要だとしているということを前提とした活動は必要だと思っています。調査もせずには勝手に開放するという考え方はいかげなものかと思っています。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	◎	ジョブチャレンジに協力して受け入れを実施。計画に基づき濃度の濃い実習をしていただいている。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	地域のケアの拠点として活動できと思っていますが、それを行う前提として、事業所の利用者様にとって必要であるか判断したうえで機関等々に対しては連携、協働を行なっている。			○	

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 シャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 6 年 1 月 26 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 15名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	8名	

※事業所記入

事業所番号	3873600450
事業所名	グループホームあまご
(ユニット名)	ふなっこ
記入者(管理者)	
氏名	藤澤 邦哉
自己評価作成日	令和 6 年 1 月 10 日

(別表第1の2)

<p>【事業所理念】</p> <p>1. 何事も決して急がず、利用者のペースに合わせて行動します</p> <p>2. 常時、会話に心掛け、利用者が安心して生活できる環境作りに努めます</p> <p>3. 地域の人のとふれあいを大切にします</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>四季折々の山間部の風景が堪能でき、雪景色が見られるなど自然環境に恵まれた場所に事業所は立地している。代表者を兼ねる管理者は、令和4年に代表を引き継ぎ、3名の役員と職員が一丸となり、利用者のペースに合わせた支援や会話を重視した支援に取り組んでいる。管理者は、現状の支援に留まることなく、日々考える介護支援を実践している。また、管理者家族は、事業所に隣接する場所に住んでおり、地域住民としても、積極的に地域との交流をしている。また、地域住民から野菜などの差し入れをもらうほか、家族から柿などの果物を提供してもらうこともあり、旬の野菜を取り入れたメニューに変更したり、干し柿や切り干し大根などの保存食を作ったりすることができている。さらに、事業所の業務改善として、管理者や副管理者を交えて、職員間で検討して導入した介護ソフトやSNSのLINEWORKSの情報ツールを活用して、タブレットでの記録のほか、職員間の情報共有が行いやすくなり、職員の負担軽減にも繋がっている。加えて、ホームページやYouTube、フェイスブックなどのSNSを活用し、利用者の様子や事業所の行事などの情報を積極的に発信している。</p>
---	---------------------------------	---

評価結果表

【実施状況の評価】

◎よくできている ○ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I. その人らしい暮らしを支える									
(1) ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	職員の思い込みにならないよう利用者様との会話や行動、態度を通して把握に努めている。	○	/	○	日々の生活支援の中で、職員は利用者から思いや意向などの聞き取りをしている。また、利用者の意思決定を促す声かけを行い、職員は利用者の思いを引き出せるように努めている。さらに、非言語のコミュニケーションを重視し、職員は利用者の表情をよく観察し、ちょっとした変化を見落とすことなく、思いをくみ取るようにしている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	身体や精神状態の確認をもとに、どのようにしたら気持ち良く暮らせるのだろうか検討、ケアの実施、改善を行っている。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	面会や電話、手紙などで家族様などとコンタクトしている。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	ヒントになるような発言や態度、行動を記録して共有している。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	決めたサービスが利用者様にとって良いのかどうかは実施してみないと分からない場合もあるのでその時は、柔軟に対応している。その時その時の思いの変化にも注意を払っている。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	事前調査や入所後の本人様や家族様との関わりで情報収集している。	/	/	○	センター方式の様式を活用した事業所独自の情報収集シートを作成している。入居前の事前調査で、管理者等は自宅や施設、病院を訪問し、情報収集シートを活用して、利用者や家族から聞き取りをしている。可能な限り、以前生活に関わっていた介護関係者や医療関係者から、情報収集をしている。中には、独居の利用者もあり、生活歴などの情報を聞くことができない場合に、入居後にも、表情や行動を観察したり、会話を聞いたりするなどの日々情報収集に努めている。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態(身体面・精神面)や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	定期的なアセスメントと日頃のケアの中で把握に努めている。	/	/	/	
		c	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握に努めている。(生活環境・職員のかかわり等)	○	24時間時系列での記録をとり把握している。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	担当者会議だけでなく、事象を常時、本人様視点で捉えチームとしてサービスを提供する習慣化を行っている。	/	/	○	管理者は、日々が情報収集であり、検討して終わることがないことを職員に伝え、日々の利用者の観察や情報収集を行い、考える介護支援を実践している。一人ひとりの利用者の状態は日々変化することもあり、日々の申し送りや会議を活用して、課題のほか、利用者自身が何を必要としているのかを検討している。
		b	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題の把握に努めている。	○	計画作成担当者、ホーム長、担当者、医療関係者を中心にチームとしての課題、目的共有、明確化を行っている。	/	/	/	
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	計画書第2表の作成は、まずは、本人様の思いや意向が記載されておりそれをもとに実施内容が作成されている。	/	/	/	
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	担当者が行う計画書への評価、担当者以外でもサービスについての意見、課題を取り込むようにしており、担当者会議での計画作成担当者やホーム長、担当者、医療関係者でそれぞれ意見を交換を行っている。家族様にも話し合った内容を伝えている。	○	/	○	定期的な評価のみに留まらず、日々の申し送りなどの中で、一人ひとりの支援のあり方を管理者や副管理者、利用者ごとの担当職員を中心に検討をしている。また、家族や医療関係者を交えて話し合い、出された意見を反映しながら、計画作成担当者を中心に介護計画を作成している。
		c	重度の利用者に対して、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	重度の線引きや定義をするのではなく今の状態をありのまま受け入れ状態の維持や改善についてチームで話し合い計画書に反映している。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	本人様の背景によってそれが可能である方には盛り込むようにしている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	介護計画書の一部を手元に置いて記録をしている。	/	/	/	○ 事業所には介護ソフトが導入され、職員は、介護計画の第2表を手元に置き、支援記録をタブレットで入力できるようになっている。介護計画をPDFに変換し、SNSのLINEWORKSの情報ツールを活用して、職員間で閲覧や情報共有が行いやすいようにしている。また、職員が希望する場合には、自宅でも情報ツールを活用して、支援経過などの記録を確認できるようになっている。さらに、利用者の発した言葉や日々の生活の様子が記録に残され、職員は記録を閲覧することで、日々のより良い支援に繋げている。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを個別具体的に記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	計画に番号を打ち、ケース記録を記入するときにその番号を記入している。記録者だけではなく端末にアクセスすれば全ての状況が確認できるようにしている。	/	/	/	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	定期的に行っている。	/	/	/	○ 介護計画の短期目標の期間に合わせて、3か月に1回見直しをしている。支援内容などの日々の支援での軽微な変更は随時実施するとともに、記録等を確認し、利用者の現状の確認が行われている。また、退院後や急激な身体状況の変化が見られた場合には、利用者や家族、医療関係者と相談して計画を見直し、管理者と副管理者を中心に、現状に即した計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	×	日々が現状確認であると思います。そのことから、迅速に対応の変化を現状に合わせるの当然でありわざわざ期間を設ける必要はないと考えます。	/	/	/	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	◎	明らかに介護計画書が機能しない場合は、緊急に会議を行い新たな計画書を速やかに作成している。	/	/	/	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	◎	開催している。	/	/	/	○ 定期的に会議を実施するほか、日々の申し送りを行い、利用者の現状確認や課題などの話し合いをしている。また、職員が会議に参加しやすいように、ZOOMを活用して参加することもできるようになっている。また、緊急案件のある場合には、その日の勤務職員のほか、管理者や副管理者などの現場にいる職員で話し合い、迅速に対応している。さらに、会議で話し合われた内容は、情報ツールを活用して、職員に正確な内容が伝達できる仕組みづくりが行われ、確実な情報伝達に繋がっている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	◎	それぞれの職員が自分がケアを行ってどうであったかを情報を提供している。エビデンスに基づく意見交換を行っている。常にチャットが開いているので意見を述べる場はある。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫するとともに、参加できない職員にも内容を正確に共有している。	◎	なんでも全員で話すという考え方は間違いです。課題によってはケアの意思決定のスピードと質が大事であると考え全員で話すこと参加者を限定することの区別を行うとともに事前に意見を述べる場を提供している。ZOOMやラインワークスを使うことについても議論ができる状態である。	/	/	/	
8	確実な申し送り、情報伝達		日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	◎	必要な情報は事業所に来なくてもラインワークスを使ってすべての職員に迅速に伝達できている。	○	◎	◎ 日々申し送りを実施するとともに、SNSの情報ツールを活用して、職員間で必要で正確な内容の伝達を行いやすくなっている。	
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	◎	その日その日ではなくその時その時の意思決定(把握)を積み重ねていく努力をしている。	/	/	/	○ 管理者は、「利用者が何をしたいか、どういう思いなのか」を考えることを重視し、職員は「○ ○しませんか」などの声をかけ、利用者や自己決定ができる機会を設けるなどの支援をしている。また、職員は利用者の意向に沿った支援を心がけ、食事や消灯の時間を決めずに、一人ひとりの生活リズムやペースに合わせた支援が行われている。さらに、管理者は、「職員は、利用者の活き活きした言動や表情を引き出す声かけや雰囲気づくりが自然にできている」と感じている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくらせている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	◎	提案はするが決められるのは本人様自身であるという立場で日々関わっている。	/	/	/	
		c	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	利用者様一人一人がそれぞれ自尊心を大切にしながら暮らせるように職員はコミュニケーション技術の向上、ホームとして出来る事の間口を広げるように努めている。	/	/	/	
		d	利用者の活き活きした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	◎	利用者様の視点に立った緩やかなルールの中で支援を行っている。ルールから外れたとしてもそれを受け入れられる寛容な雰囲気づくりを努めている。	/	/	/	
		e	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	喜び楽しみだけでなく色んな感情表出が引き出せるようにコミュニケーション技術(傾聴・共感・リアクション等)向上に努めている。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。(人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮、目立たずさりげない言葉かけや対応等)	◎	それについての意識の浸透と向上のために、会議を行い自己点検やお互いに言葉遣いの事について意見を言い合える職場作りを努めている。場合によっては他者様たちの前で大きな声で声をかけないといけない場面もあるが、会議で自己点検実施したりや嫌な思いをさせない声の掛け方や介助の工夫についての検討会や許容範囲の線引きを行っている。	◎	○	◎	○ 職員は勉強会や話し合いで、人権や尊厳、プライバシーなどを理解し、利用者の意見や意向を尊重した支援が行われている。スピーチロックにならないことを重視し、時間をかけて、継続的に勉強会を実施し、職員の理解促進に努めている。また、気になる言動などの課題解決に向けた進捗状況を、管理者は確認をしている。さらに、職員は居室を利用者のプライバシーのある空間と認識し、居室への入室の際に、ノックや声かけをしてから入室するとともに、退室時にも利用者に声をかけることができている。不在時にも、事前に利用者に声をかけて、了承を得た上で、職員は入室することができている。
		b	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	一つ一つ声をかけ同意を得ながら排泄介助を行ったり排便の確認などはさりげなく声をかけ行っている。個浴による入浴介助を実施している。	/	/	/	
		c	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	利用者の状態に関係なくノックまたは、声をかけて入室している。また、居室に居ない場合にあっては本人様の同意を得て入室をさせてもらっている。	/	/	/	
		d	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	職員は守秘義務の誓約書に署名しており遵守している。また、職員同士でやりとりするプライバシーに関わる内容は本人様や他者に聞こえないよう配慮を行っている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	互いを尊重し合うことで、お互いに感謝の言葉が出る関係づくり、また、意思決定や同意を大切にすることでお互いの立場が対等であることを伝えている。	/	/	/	管理者は、「トラブルは起こるもの、起こってから分かることと利用者から教えてもらい、先入観で利用者を見ることはしない」との考えで、利用者同士が共存していくため、どうすれば良いか考えていくことを、職員に伝えている。職員は、利用者の性格や相性などを把握している。また、利用者同士が下膳を手伝ったり、励ましの声かけをしたりするなど、支え合いや助け合いをする場面も見られる。さらに、職員等は、利用者に役割を担ってもらった場合には、感謝の言葉を伝えている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	理解しているが、協調性や全体性を重視しすぎるのは、個別の暮らしの充実とは相反するので折り合いが難しい。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)	○	利用者様の個性や他者様との相性など把握できている。また、コミュニケーションや身体精神状況が異なることを踏まえ無理のない緩やかな共存関係の構築が出来ている。あくまでも個々への尊重であり個々の権利優先であるからして誰かを世話役的に考える事は非常に危険な考え方だと思います。そのようなことは実施していません。	/	/	○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	◎	予測に基づき未然に防げることは防ぐ。トラブル時は、職員が載くのではなく、必ず当事者様の話しをまず聞きその思いや相手に伝えたい気持ちに共感を行っている。	/	/	/	
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	事前聞き取りである程度把握できている。	/	/	/	
		b	知人や友人等が気軽に訪れたり、本人が知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていったりなど、これまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	案外それが本人の意思決定であったとしても良い時と悪い時があり、積極的に外出してその場所を訪れたり、知人や友人との関係を維持するような支援はしていない。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者(および意思表示が困難な場合はご家族)の希望に沿って、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	職員の都合という文言の定義が分からないが、すべての支援は合理的配慮をもとに行っている。寝たきりの方を除いてすべての利用者様の施設周りの散歩支援を行っている。その方の希望に合わせて歩く距離や歩く場所を選んでいる。	○	◎	◎	日常的に、事業所周辺の散歩をしている。また、散歩などの外出をする際に、職員は利用者の意見や希望を確認している。さらに、行事計画係が外出計画を立て、定期的に、初詣やコスモス畑、フラワーパークなどにドライブをして出かけることができています。
		b	家族、地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	現在の状況では行っていない。そもそもそのような地域資源がない。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	理解の幅はあるが、あらゆる因子を検討し環境を整え引き起こさないよう取り組んでいる。	/	/	/	利用者自身に、できることやできそうなことは自分でしてもらい、職員は見守りや待つ支援に努めている。また、自立支援が利用者の苦にならないように見極めをしながら、職員は、利用者から出された「歩きたい、家に帰りたい」などの希望や要望に応じて、歩行器を使用して歩行訓練をするなど、希望や意向を尊重した支援に取り組んでいる。さらに、職員は、利用者の生活リズムやペースに合わせた支援が行われている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	運動や遊び、身の回りの事などその方に合った取り組みを通じて予防を行っている。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	個々の状態を見極め、押しつけや過介護にならないよう取り組んでいる。何よりも高齢になって自立して生きることが苦しみにならないよう十分に配慮して支援を行っている。	◎	/	○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	利用者様個々のそう云った情報は把握した上で、今、どのようなことで楽しい気持ちになれるのか、嬉しい気持ちになれるのかを検討している。	/	/	/	切り干し大根や干し柿づくりなど、職員は声をかけ、意思や意向を尊重しながら、利用者から「やってみようか」という声がかかるような役割や出番を担ってもらえるよう支援している。また、声かけや役割を担ってもらったことが、過度な無理強いや苦痛とならないように、職員は注意を払うようにしている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごすように、日常的に、ホームの内外で一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	全ての方が役割や出番があるわけではなく、またそれを欲しているわけではないということも踏まえて、何が出来るからという判断ではなく自らしたいという自己判断を尊重しながらホーム内外での楽しみごとや役割の支援を行っている。	◎	◎	◎	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つと捉え、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	全ての方の把握はしていない。				訪問調査日には、利用者自身が好みの服を選び、作業衣や半纏などを着ている姿を見ることができた。また、服などの整容の乱れが見られた場合には、職員が利用者へ声をかけ、さりげなくフォローをしている。さらに、重度の利用者にも整髪や身だしなみに気を配るとともに、リビングに出る際に、利用者の状況を考えて、上着を羽織るなどの工夫した支援も行われている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	○	把握できている方に関しては支援できている。また、家族様を選んで持ってきていただいた服や持ち物を使用できるよう支援している。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員が一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	判断力の度合いに応じて、一緒に選んでいる。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせたその人らしい服装を楽しむよう支援している。	◎	ダンスの中の入替えを季節毎に行い、季節に合った服装が出来る支援を行っている。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にできなくなり、口周りや髪等が汚れている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	あからさまなことをせずに清潔感を保った身だしなみが出来る支援を行っている。	◎	◎	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	◎	希望がある場合は送迎や支払いなどの支援を行っている。ホーム内での理容においても相談しながら行っている。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	◎	気持ち良さや楽しさ、清潔感を見ながら支援を行っている。訪問美容師に依頼して定期的に整髪している。			○	
		h	職員の髪型や化粧は清潔感を保つためにも必要であると理解している。	○	生きる上での楽しみであり、心身の健康を保つために必要であると理解している。				
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	生きる上での楽しみであり、心身の健康を保つために必要であると理解している。				管理者が、利用者の好みのメニューや意見を聞いて献立を作成し、利用者へ調理の下ごしらえや台拭き、食器拭きなどを利用者へ手伝ってもらいながら、職員が調理をしている。主に管理者が食材の買い出しに出かけるほか、地元の精肉店や鮮魚店から、食材の配達をしても多く、旬の野菜を使用したメニューに変更することもある。家族から、夏にスイカのほか、秋に栗や柿の差し入れをもらうこともあり、利用者と一緒に干し柿づくりなども行われている。食器類は、利用者の状況に合わせて、使いやすい物を使用している。食事の際には、職員は見守りや食事介助を行い、利用者とは別々の時間帯に食事を摂るようになっている。リビングを見渡せる場所にキッチンがあり、利用者は調理の様子を眺めながら、音や匂いを感じることができる。さらに、利用者の摂食状況に応じて、管理者や副管理者、訪問看護師、主治医を交えて相談を行い、食の形態などに対応するとともに、味付けなどを職員間で話し合いこともある。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにしている。	○	台拭きや下膳は一緒にしている。下準備や後片付けは本人様の意向に従って実施している。今は、その活動を望む利用者様は少ない。個々の主張に配慮しつつも主張しない方の事も配慮している。また、地理的要因もありその日暮らしのような献立は難しい。			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	丁寧にお願いしたり、感謝の意を伝えてはいる。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	把握はしている。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって音なつかしいもの等を取り入れている。	○	畑で採れた野菜や近所の農家の方に頂いた野菜をふんだんに使ったり、芋ご飯やだんご汁、季節の山菜など昔食べていたであろう食事を取り入れている。			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼、嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしい盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	誤嚥性肺炎の可能性と相談しながらの食事形態を検討している。見かけだけではなく、基本のhot is hot, cold is cold を実践している。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	それぞれ模様や材質など違ったものを使用している。			○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	◎	要介助者の介助をしつつも周りに配慮しながら声かけを行っている。			○	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	働きかけの声かけや、何が出来るのだろうかと一緒に考えたり、一緒に食前体操を行い食事の時間が近づいていることを意識して頂く配慮を行っている。また、オープンキッチンなので匂いは直ぐにリビングに漏れると思います。	○		○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	病状や体型などに配慮しながら水分や食事の摂取量を調整している。				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	好きな飲み物にしたり、時間をずらして食べたいものを待ったり、一度に飲むのが負担な場合は、回数を増やしたりしている。飲んだり食べたりすることが本人様の精神的負担にならないよう配慮した支援を行っている。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	献立作りは、管理者が行い出来た献立に関して各職員からのコメントを受け修正するようにしている。栄養士のアドバイスは受けていないが、炭水化物ばかりにならないよう配慮している。			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	毎日、まな板や布巾などの消毒を行っている。冷蔵庫の掃除や納品時に在庫食品の確認を行い清潔や鮮度を管理している。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	勉強会で学び必要性や重要性について理解できている。	/	/	/	毎食後に、職員は声をかけ、利用者は口腔ケアを実施している。また、職員は見守りのほか、利用者自身が歯磨きなどをすることが難しい場合に、サポートをしている。さらに、口腔ケア時に、職員は一人ひとりの利用者の口腔内を観察し、状況を把握して、記録に残している。必要に応じて、早期の訪問歯科診療や歯科医の受診に繋げている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	◎	付き添い、必要な介助を行い把握している。	/	/	◎	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	トラブル時は、外来または訪問歯科受診を受け指導して頂いている。	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	義歯を使用している利用者様に対しては毎日磨けているかどうか確認している。	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないよう、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック、歯科医の受診等)	○	トラブルが起きやすい方に対しては特に行っている。	/	/	○	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	理解している。	/	/	/	事業所では、基本的に利用者がトイレで排泄できるように努め、職員は声かけやトイレ誘導などの支援をしている。利用者の状況に応じて、布パンツや紙パンツ、パッドの種類をその都度職員間で話し合い、利用者や家族に確認の上で使用している。また、意向に沿って、夜間のみポータルトイレを使用する利用者もいるなど、一人ひとりに応じた適切な支援に努めている。さらに、排便の状況は、事業所独自のスケールを作成し、職員が把握することができる仕組みづくりをしている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	理解している。	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	概ね把握している。記録を行い共有している。	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々々の状態にあった支援を行っている。	○	その時の状態を把握してトイレでの排泄支援に取り組んでいる。最近では、入所時から紙パンツを履いている方が多い。	◎	/	○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	排泄そのものや排泄に至る行為、食事や水分などに注目して改善の取り組みを行っている。	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	記録をもとに把握に努め誘導を行っている。	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	自立されている方は自分で選んで選んで載っているがそうでない場合は職員が十分吟味して選んでいる。適切かどうかの確認は頻繁に行っている。気になる家族様に対しては報告するようにしている。	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	個々の状態に応じて使うものを検討し導入している。	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	運動を取り入れたり、食物繊維の摂取、夏場の水分摂取量を増やすよう試みたりする程度である。	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	○	合理的な判断配慮に基づき入浴日や時間を指定して入浴支援を行っている。一人一人の好みを把握して入浴支援を行っている。	◎	/	○	週2~3回、午後の時間帯に利用者が入浴できるよう支援している。職員の勤務状況もあり、入浴できる日や時間帯を決めているものの、利用者から夕方の時間帯等の入浴希望が出された場合には、対応することも可能となっているが、現在は希望は出されていない状況となっている。また、利用者の重度化に伴い、浴槽に浸かることが難しくなった利用者には、シャワーキャリーやストレッチャーを活用して、シャワー浴をしてもらうなどの工夫を行い、清潔保持にも努めている。中には、入浴を拒む利用者もあり、意向を確認するとともに、時間帯や職員を変更して声かけをするなどの対応をすることもある。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	○	最大限の配慮を行っている。	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	勿論そうではあるが、浴室は、事故や健康状態急変の確率が高い場所であることを考慮しながら一人一人に支援を行っている。	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ちよく入浴できるよう工夫している。	◎	原因や理由が毎回同じとは限らないので都度本人様の気持ちや意向を伺い清潔維持との天秤をかけながらどうしてもという時は粘り強く対応している。	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	入浴前にバイタル測定を必ず行っている。浴後の経過の見守り、水分補給を勧めている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	◎	把握できている。	/	/	/	管理者は、「夜眠ることが何より大切である」と考え、眠れないことのデメリットや影響のほか、検討などの過程を踏み、医師に相談の上で、睡眠導入剤などの服薬に繋がることもある。また、服薬が開始された場合には、利用者の状態などの経過を主治医に報告し、相談しながら薬の量などを調整している。また、利用者の生活リズムに合わせた睡眠支援が行われている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	食生活や排泄、日中の活動量など把握を行い原因を探っている。その都度、生活リズムを整える試みを行っている。	/	/	/	
		c	利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	◎	そこに至るまでのプロセスを守った上で、つまり原因や状態、健康状態の悪化リスク等を把握して改善の取り組みを行った上で効果の無い場合は医師と相談して眠前薬や安定剤の処方を受けている。	/	/	◎	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	個々の状態に応じて休息を支援している。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	◎	贈り物が届いたり、家族の安否を機にされるときは電話やアプリを使ってのオンライン面会の支援をしている。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	◎	今は電話ができなくても手紙が書けなくても自らの思いや様子を伝えられる手段を使い支援を行っている。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	◎	電話や端末をすぐに利用できる状態にある。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	◎	手紙が届くことはない	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力してもらおうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	◎	オンライン面会を勧めている。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	理解できている。	/	/	/	
		b	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	○	各利用者様によってお金に対する価値観の違いを把握して使う場面への支援を行っている。	/	/	/	
		c	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	近くに店が無いので定期的に巡回する移動販売を利用して頂いている。	/	/	/	
		d	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	×	決めつける以前の話として、お金の怖さを理解している施設の対応としては、入所時にトラブルの事例を伝えて個人でのお金の所持はお断りしている。	/	/	/	
		e	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	所持については認めていないので相談していないが、どうしても所持したい場合は施設側が責任は負わないとお伝えしている。使い方に関しては頻りに相談している。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	他科外来の付き添いや急な受診時の付き添い、入退院、入院中における支援、療養マッサージの受け入れなど本人様の諸事情に合わせて出来るだけ対応している。	◎	/	◎	利用者や家族の要望に応じて、家族との面会のほか、外出支援を自由に行なえるようにしている。また、利用者から訪問マッサージの希望が出された場合には、外部サービスの手配をしたり、医療機関の同行支援に対応をしたりするなど、柔軟な支援やサービスの多機能化にも取り組んでいる。
(3) 生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	◎	玄関先には花壇や座る所を設けている。気候の良い時は基本的に玄関の扉を開けて中での歌声や話し声が聞こえるようにしている。	◎	◎	◎	玄関や事業所周辺には、季節の花のほか、南天やレモンの果実が収穫できる木が植えられている。訪問調査日に積雪が残り、雪かき用のスコップなどが置かれ、家庭的な雰囲気を感じられた。また、玄関先に、野菜などの差し入れを置いてくれるなど、地域住民も気兼ねなく、事業所に来訪できるようになっている。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を感じており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない寂風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていない等。)	○	バランスをとりながら家庭的な雰囲気を無くさないように十分に配慮することに努めている。掲示義務の書類掲示や必要に応じて使う車イス配置、必要性からトイレ内に排泄用品や大きなゴミ箱など置いている為に独特に雑多(混ざった)な感じがあると思います。	○	○	○	玄関に入ると、事業所内で飼育されているウサギが迎え入れてくれている。リビングにオープンキッチンが設置され、利用者や職員と一緒に、調理やおやつを作ることができる空間が設けられている。食卓テーブルが置かれている場所に、床暖房の設備もあり暖かく、廊下の天井から吊るされた手作りの物干しに、洗濯物が干され、家庭的で居心地の良い空間となっている。また、共用スペースの掃除が行き届き、整理整頓が行われ、利用者の動線の確保にも繋がっている。さらに、庭にテラスや畑があり、からしを干した網がかけられていた。加えて、畑に植えられた収穫前のダイコンやネギの成長を見ながら四季を感じるなど、利用者の五感を刺激できるような工夫が行われている。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	カーテンの開閉で光の調整やびくつきするような音を出さないよう配慮している。トイレや床、廊下の掃除は毎日行っている。	/	/	○	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	季節の花を活けたり、窓を大きくとり外がすぐに見える様にしたり、エアコンの調節をこまめに行い、視覚、聴覚、嗅覚、触覚で季節や時刻を感じるようになっている。	/	/	○	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	◎	玄関先にベンチを起きたり、リビングにソファを設置している。	/	/	/	
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	入所前には本人様や家族様へ馴染みの物好みの物の持ち込みを呼びかけている。だいたいの方が何かしらの物を持ち込まれている。	◎	/	◎	利用者は、馴染みの物や使い慣れた物を居室に持ち込むことができ、仏壇や洋服かけ、櫛や鏡が置かれるなど、職員が利用者と一緒に考えて配置するなど、居心地の良い空間づくりをしている。中には、家族が利用者のために加湿器などを持ち込んでいます。また、出入り口に近いたンスの上に、何種類もの帽子を置き、散歩時などの外出時を選びやすいようにしている利用者もいる。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、混乱や失敗を防ぎ、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	まず、お一人お一人の事を把握して、それぞれの方に対応していく方針である。手すりの設置、床面バリアフリーで移動しやすいように配慮している。	/	/	○	リビングにソファが置かれ、利用者の立ち上がりには留意して、高さを調節している。また、居室の入り口に名札を設置し、利用者が居室を迷わずに認識しやすいように、一言ずつ文字を表示するなどの工夫をしている。さらに、利用者の状態に応じて、歩行者や車いすの利用者などの適切な選定をしている。
		b	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	新聞や湯飲みは手じかに置いている。家庭において、いつでも手にとれる距離に、ほうきや掃除機、裁縫道具や大工道具や園芸用品が置いてある方が不自然だと思いませんか。	/	/	/	
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていること)の異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等を理解し、日中は玄関に鍵をかけなくても済むように工夫している。(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)	◎	夜間以外は、玄関の施錠はしていない。	◎	◎	◎	管理者や職員は、鍵をかけることの弊害を十分に理解をしている。職員は、「利用者の自由を制限しないことが仕事である」と考え、日中に玄関やユニットの出入り口などは施錠されておらず、夜間のみ、19時から7時まで、防犯のために玄関の施錠をしている。また、玄関にはセンサーチャイムが設置され、職員は利用者や来訪者の出入りが分かりやすくなっている。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	◎	施錠を望まれる時には、家族様には、心身の状態やホームでの対応について報告している。そして最大限の安全配慮を行っていることとそれでも起こりうるリスクについて話をしている。	/	/	/	
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	事前情報や定期検査の報告などで概ね把握している。	/	/	/	
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	注意しており、記録を行っている。	/	/	/	
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	ちょっとした皮膚のトラブルや血圧などの異常値の場合は主治医や訪問看護師に報告して指示を仰いでいる。	/	/	/	
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	把握して希望に沿って受診支援を行っている。	◎	/	/	
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	よく話し合い、希望に応じてかかりつけ医を決めて適切な医療が受けられるようにしている。	/	/	/	
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	通院前や通院後の報告、今後の支援に付いての話し合いを行っている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	暮らしの近況や認知症の症状など詳しく情報提供を行っている。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、日頃から病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	病院の相談員などと連絡を取り合い早期隊員が出来るように努めている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	皮膚の異常や嘔吐、便のつまり具合、微熱や咳き込みなどなど、ちょっとしたことでも訪問看護師やかかりつけ医へ相談している。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	訪問看護ステーションとの24時間対応の契約となっている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできる体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	日常的にバイタル測定を行いサインを見逃さないように取り組んでいる。誤嚥が疑われる場合は頻度を上げて測定し早期発見に努めている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解し、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	目的はある程度理解していると思うが副作用や用量がどうであるかについては分からない。注意が必要な時には都度に医師から指示を得ている。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	3度の確認を行っている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	内服後の経過観察を行っている。				
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	現段階での意向を確認しながら暮らしの支援を行っている。				事業所として、「看取りについての対応指針」等を整備し、入居時に家族等に説明をしている。重度化や終末期の状況に伴い、利用者や家族、管理者、副管理者、医師、医療関係者等を交えて話し合い、その都度支援の方向性を確認している。日常的に、事業所として医療関係者との連携が密に図られ、主治医等から、段階的に利用者の状況変化の報告があり、情報ツールを活用して、職員間で情報を共有している。また、管理者は看取りに至る経緯が重要と考え、利用者や家族等の意向に沿った支援に努めている。職員の聞き取りから、「不安な時に管理者に連絡することができ、すぐに対応してもらえることもあり、安心して夜間の支援ができる」との意見を聞くことができた。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけではなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	◎	随時、本人様、家族様とかかりつけ医や職員との話し合いの機会を作っている。	○		◎	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	◎	職員のストレスにならないような終末期の支援の検討がなされている。				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	◎	本人様、家族様には都度に出来る事や選択肢の提供を行って同意や方針の共有を得ている。				
		e	重度や終末期の利用者が日々より良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	◎	状態に応じて都度に検討を行っている。栄養補助飲料やエアマット、ギャッジベッドの使用、吸引機の準備もしている。				
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	◎	家族様の心情を理解しながら、気持ち良く本人様と過ごして頂くために配慮を行っている。				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	◎	年に2回研修を行い学んでいる。				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	◎	訓練は行っていないが、取り決めに基づき予防や発症後の対応は行われている。				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れ、随時対応している。	◎	取り入れ周知されている。				
		d	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	取り決めに基づき支援を行っている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人をともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	入所時には、ホームの方針として共に支える事をお伝えしている。支援方法についての相談や情報交換を行っている。	/	/	/	感染対策が緩和され、家族との面会のほか、希望に応じて、外出や外泊が可能となり、利用者や家族に喜ばれている。令和5年の夏に、家族や地域住民が参加した夕涼み会を開催し、カレーライスを食べたり、花火を楽しんだりすることができた。また、担当職員が毎月利用者の様子を手書きしたお便りを家族に送付している。また、SNSを活用して、事業所の運営上の出来事や役職就任の挨拶などを配信している。さらに、職員は家族との信頼関係を築き、面会時や電話連絡等を活用して、気軽に意見や要望を伝えてもらえるようにしている。
		b	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等、家族同士の交流)	◎	全てではないが、差し入れのおやつと一緒に食したり散歩に出たりする機会を作っている。	○	/	◎	
		c	家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たよりの」発行・送付、メール、行事等の録音、写真の送付等)	◎	面会や電話時の会話で現況や課題についての情報を共有してどのように支援するか一緒に考えたり支援方法を伝えたりしている。暮らしの様子などについてはホームページやSNSを通じて知って頂いている。	◎	/	◎	
		d	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	◎	本人様と家族様との関係は様々で、まずはそれを理解してどのような関係性が適切なのか考えそれぞれの家族様に対応をしている。	/	/	/	
		e	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	◎	ホームページやSNSで頻繁に報告している。	x	/	○	
		f	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	入所時や事あるごとに現在のリスクに関してや話し合われた内容について報告している。	/	/	/	
		g	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行うことで、居心地よく安心して過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	◎	礼儀ある応接、またフレンドリーな対応で家族様に対して安心して気軽に話してもらえる環境を作っているので家族様からの意見や問い合わせは多い。	/	/	○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。(食費、光熱水費、その他の自己負担額、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	時間を十分にとり、具体的な例を挙げながら契約内容の説明を行っている。	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	退去事由については契約書に記載されている。	/	/	/	
III. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域、事業所が所在する市町の日常生活圏、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	◎	開設時に地域訪問を行っている。運営推進委員は、地域(自治区)の代表者様に代々努めて頂いている。	/	◎	/	事業所は自治会に加入し、管理者は自治会の役員を務めている。地域の高齢化や人口減少が進んでいるが、地域住民から畑で収穫した野菜の差し入れをもらうなど、助け合う関係性が構築されている。また、散歩時に、近隣住民と利用者が挨拶や会話を交わしている。さらに、管理者は、事業所に隣接した家屋に居住するほか、地元に住んでいる職員がいるなど、事業所は地域に慣れ親しみ、地域住民から認識されている。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	◎	利用者様、職員は屋外で地域の人に出会った時は挨拶が出来ていてフレンドリーである。役員、管理者は地域の自治会の役員や班長を務めている。施設長はじめ事業所役員や職員がその地域に住んでいる。	/	○	◎	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	x	過疎地なので減ることはあっても増えることはないと思います。	/	/	/	
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	△	用があれば立ち寄って頂いていますが何もなければ立ち寄り遊びに来ることはないでしょう。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	◎	出来ている。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	x	行っていない。	/	/	/	
		g	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得て、安全で豊かな暮らしができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	△	理解を広げるとは何の理解でしょうか。何か理解を得ないとここに住むことができないのでしょうか。豊かとは何を指して豊かなのわかりかねます。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人の参加がある。	○	利用者様以外の参加は出来ている。流行病前は一緒にレクリエーションや散歩を行なったりしていた。	○	/	○	感染対策が緩和され、旧小学校の跡地の「みそぎの里」を活用して、集合形式の運営推進会議が開催できるようになっている。会議には、家族や地域住民、警察官、町担当者などが参加して開催をしている。会議では、事業所の現況報告や各種委員会の報告、職員の昇進等を報告、外部評価のアンケート依頼などを行い、参加メンバーと意見交換をすることができている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告するとともに、会議で出された意見や提案等を活かした結果等も報告し、議事録を公表している。	○	報告はしているが、そもそもこの評価事業自体に意義があるので大きく取り扱うことはない。	/	◎	○	
		c	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	◎	自治会の活動と被らないように毎回連絡を取り合って日程調整している。	/	/	○	
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	◎	共通の認識をもち理念を理解し、同じ方向を向いている。	/	/	/	/
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	◎	家族様には入所前に伝えている。それよりもその理念の体現によって伝わっていると思う。	△	◎	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	認知症介護実践者研修には積極的に取り組んでいる。毎年研修計画を作成して法人内研修を行い質の向上に努めている。	/	/	/	利用者の病院受診の同行支援や買い物など、職員の負担になることは管理者や副管理者が対応し、職員に、利用者の日常生活支援に専念できる環境を作っている。また、管理者と副管理者のいずれかが、必ず勤務する日勤のシフトにしている。職員の聞き取りから、「積雪の際に、送迎をしてもらったり、オンラインでの会議に参加したりするなど、安心して業務につける」などの話を聞くことができた。さらに、希望休や有給休暇の取得を促すとともに、急な勤務の変更にも対応してくれるなど、働きやすい職場環境づくりが行われている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるように取り組んでいる。	○	知識、技術、考え方や態度を基本に日々の実務の中での教育や訓練にあたっている。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	キャリアパスを用いて給与水準を明確にしている。また、時間外労働にならないよう常々環境や業務内容の点検を行っている。労働に対する動機は各々違うので個別に配慮を行っている。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	町の中での任意団体に所属して情報交換などを行っている。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	日勤帯の3人+α体制を維持することに努めている。	○	○	◎	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解したうえで、これらが見逃ごされることがないように注意を払い、発見した場合の対応方法や手順についても理解している。	◎	委員会を設置していてその中で法律を学んだり事例検討をしたりしている。	/	/	◎	事業所として、虐待身体拘束委員会を立ち上げ、各ユニットで課題を挙げるとともに、職員間で話し合い、課題解決に向けて取り組んでいる。管理者と職員は、虐待や不適切なケアに該当する具体的な行為を把握するとともに、気になる言動のある場合には、常に職員間で検討をしている。また、不適切なケアなどを実際に確認した場合には、管理者や副管理者に報告して相談するとともに、職員同士で「もう少し優しく対応してほしい」などの注意をし合うこともある。管理者は、「不適切なケアになる前に何か隠れていないか」と考え、職員間で事例を検討するなど、事前に対策を行うようにしている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	◎	朝と夕申し送りを一緒に聴いて状況に基づく助言や職員のとった判断について話し合ったりしている。	/	/	/	
		c	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	◎	合理的判断に基づく無理のないケアを行うよう指示をしている。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	◎	全体で学ぶ機会を持っている。やむを得ない場面自体が起きない取り組みを行なっている。	/	/	/	/
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	◎	全体で事例検討会を行なっている。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	◎	ある場合は説明している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解し、利用者が家族の現状を踏まえ、パンフレット等の情報提供や相談に乗る等の支援を行っている。	△	管理者としては制度など理解しているが、それを支援するのは職務外であるとして積極的に支援はしていない。	/	/	/	
		b	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	△	この支援に関しては連携体制を築いていない。	/	/	/	
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	マニュアルは掲示している。毎年勉強会を行なっている。	/	/	/	
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	訓練を行い実践に当たっている。実践経験を積むことで実践力の向上を図っている。	/	/	/	
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	事故報告書、ヒヤリハットを作成している。それをもとに全体で検討会を行なっている。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	検討会の中で把握し防止につなげている。	/	/	/	
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	殆どの職員は理解している。	/	/	/	
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	そのような事案が出来ないよう取り組んでいる。	/	/	/	
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	もしも事案が発生したら手続きにのっとり、透明性を持った事実確認を行い今後の対策、改善を行いたいと思います。	/	/	/	
48	運営に関する意見の反映	a	利用者や家族が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	運営推進会議や家族様と話す機会を多く持つ。	◎	/	◎	日々の生活支援の中で、職員は利用者から意見や要望を聞き、柔軟に対応をしている。家族からは、面会時や電話連絡時、運営推進会議を活用して、意見や要望を聞くようにしている。日頃の家族との交流で、信頼関係が構築され、いつでも意見を伝えてもらうことができている。また、職員も管理者や副管理者に意見や要望を伝えやすい環境が整備され、意見や提案を伝えやすく、出された意見や提案を話し合い、より良い支援に繋げている。
		b	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	契約時に重要事項説明書の読み上げを行なっていて、その中で情報提供を行なっている。	/	/	/	
		c	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	◎	代表者は現場に居ます。	/	/	/	
		d	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	◎	業務全般、ケア全般、設備投資など幅広い場面で意見を求める機会を持ち、サービスに対する満足度の向上につなげる取り組みをしている。	/	/	◎	
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	◎	自己評価を年に1回行っている。	/	/	/	外部評価の自己評価は、職員と一緒に取り組み、管理者が意見を取りまとめて作成をしている。また、利用者や家族、会議の参加メンバーに、外部評価を受審することを事前に伝えるとともに、アンケートの協力依頼を行っている。事業所の考えで、サービスの評価結果の報告や目標達成の取り組み状況などのモニターの呼びかけなどの予定はしていない。
		b	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて、事業所の現状や課題を明らかにするとともに、実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	×	十何年も内容が変わらない、このサービス評価自体の存在が単なる利権の一部であるという認識、評価事業の効果に疑義がある立場をとっています。よって自事業所の目標や課題は自事業所のやり方で達成、解決するという姿勢です。	/	/	/	
		c	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	×	生産性のない茶番である評価や目標達成計画のモニタリングに多くの方の手を煩わせるのは申し訳ないのでしません。	△	△	△	
		d	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	×	大きく取り扱うことはないが運営推進会議の中でこのようなことがあって現在こうしていますと簡単に確認をしていただいています。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	県のガイドラインに従ったマニュアルを作成周知している。	/	/	/	防災士の資格を持つ管理者は、地元の消防団に所属し、日頃から地域の防災活動に協力している。事業所として、火災や風水害、昼夜等を想定した避難訓練を実施している。地域の高齢化や人口減少が進み、地域住民に協力を得ることは難しい状態になってきているが、消防署や消防団と連携を図り、協力支援体制を確保している。また、町行政と一緒に、地域の合同の防災訓練に協力している。利用者家族等アンケート結果から、災害の備えに対して、十分な理解が得られていないことが窺えるため、家族に安心安全な災害支援の取り組みを伝えていくことも期待される。管理者は、「情報を自分で取りに行くことも大切で、受け身ではなく、分からないことがあれば、家族から聞いて欲しい」などと考えている。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるように、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	主に夜間帯の避難訓練を行なっている。	/	/	/	
		c	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	行なっている。	/	/	/	
		d	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	消防署の支援をもとに訓練を実施している。	x	○	○	
		e	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	○	大規模災害時の訓練を内子町と実施した。町や地域には緊急時に協力出来ることは伝えている。	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	◎	一部はできている。ただ、今の時代は、情報は様々大量に発信されています。問題はそれを掘みに行くかどうかということだと思います。よって事業所としては発信は続けますがあとは受けて次第だという認識です。	/	/	/	以前は、事業所として、地域の「いきいきサロン」を開催し、地域の高齢者等の相談支援をすることができていたが、コロナ禍や感染対策が続き、現在は中止をしている。以前に参加していたサロンのメンバーの来訪があり、相談に応じたり、交流したりすることの継続をしている。また、地域の高齢化や人口減少に伴い、地域住民が集まる機会が少なくなっている。旧小学校跡地で、月2回「みそぎの里カフェ」が開催され、有料で食事が提供されるなど、運営推進会議の場所としても活用している。管理者は、「相談が寄せられた場合や地域の行事等には協力をしていきたい」と考え、今後は地域の活動拠点として、協力していくことも期待される。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	△	公式な相談支援ではないが地域の高齢者と関わる時には相談や困りごとがないかと注意を払っている。	/	x	○	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	x	事業所ではあるが、そこに住んでいる人が居て、その人たちがそれを必要だとしているということを前提とした活動は必要だと思っています。調査もせずには勝手に開放するという考え方はいかげなものかと思っています。	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	◎	ジョブチャレンジに協力して受け入れを実施。計画に基づき濃度の濃い実習をしていただいている。	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	地域のケアの拠点として活動できるとしていますが、それを行う前提として、事業所の利用者様にとって必要であるか判断したうえで機関等々に対しては連携、協働を行なっている。	/	/	○	